HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」14号
Description	Vol.3 No.2
Issue Date	1969-04-04
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66826
Type	journal
File Information	yuin14.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学附属図書館報

楡蔭

The Hokkaido University Library Bulletin　Vol. 3,　No. 2.　Apr. 1969

図書館の機械化について

教育学部助教授　司　馬　正　次

図書館は手工業の最後の砦となるのではないかと恐れている。本学の中央図書館をみても，複写業務にゼロックスを導入している点と館外図書借出票に感圧紙によるワン・ライティング方式を採用しているほかはあまり機械化されていないようだ。

この状況を企業の事務機械化の歴史になぞらえるなら，せいぜい昭和25-6年の水準といえる。単能機を導入し，事務の標準化を始めた時代だ。このような大幅な遅れは，文化遺産の蒐集，保存といった図書館本来の持つ受身な性格によるのかも知れない。

しかし，いまや情報の時代といわれる通り図書館にとっては全く新しい時代を迎えつつある。記録は爆発的に増加し，専門分野の細分化と深化にともない“学内における学術情報センター”としての機能を最高度に発揮することが要請されている。すくなくとも，従来のような借席業と倉庫業に甘んじる姿勢より脱却する必要にせまられていることは確かだ。最近あちこちで積極的に論じられている図書館業務の機械化は，まさにこの目的に対する解答を与えるものとして生まれてきている。

したがって，機械化のねらいは，単に個々の業務をバラバラの機械に置きかえることではない。将来における情報センターとしての目的に合致するよう業務の再編成を目指すものと考えられている。

しかし，本学において当初より一度にそれに達することを求めても無理というもの。昭和25年の水準と昭和44年との格差は厳然として存在する。一歩一歩，機械化を行ないやすい領域より経験を積みあげ進んでいく必要があろう。

たとえば，発注，受入，閲覧などにともなう事後的な事務処理をまず機械化する。そして情報検索など，問合わせに答える即時的な業務は暫くおき，条件の整備を待ってとりかかるなどのステップが考えられよう。

しかしそのような手順はあるにしても，これらの動きは単なる事務改善にとどまらない点に注意しなければならない。未来の図書館づくりの第一歩としての意義を持つものといえるし，またそのように計画する必要があろう。

◆ 会 議

第37回 図書館委員会

<と き 昭和44年2月26日 (水)>

<ところ 附属図書館会議室>

1. 文学部北方文化研究施設室および教育学部教官個室明け渡し後の利用について

館長から文学部および教育学部の新営建物の完成 (5月頃の予定) に伴い，現在両学部が利用している本館4階および5階の室の明け渡し後の利用について本館の案の説明があった。同案については，各部局で検討願うこととし，次回図書館委員会で決定することとなった。

2. 教養分館設置申請について

教養分館設置に伴う諸規程 (北海道大学附属図書館分館設置規程 (案)，北海道大学附属図書館分館長選考規程 (案)，北海道大学図書館委員会規程の一部を改正する規程 (案)) の制定等について，2月12日開催された部局長連絡会議および2月19日開催された評議会で承認され，これに基づき文部省に申請したので，きたる4月1日から教養分館が設置される予定である旨館長から報告があった。

3. 学部共通図書について

科研費および学部共通図書費による図書の購入については，次のとおり処理した旨館長から報告があった。

I. B. Z, S. C. I, 朝日新聞マイクロ版，マテリアルズ，サドラースペクトラ，ブリタニカ，学生用図書

4. 学生用図書の受贈について

北海道大学生活協同組合から教養学生用図書60万円相当を本館に寄贈する旨申し出を受けたので，これらの図書は，教養部図書委員にその選択をお願いすることとし，整理後は教養分館に備えたい旨館長から報告があった。

5. 日米大学図書館会議について

以前から準備を進めている第1回日米大学図書館会議が，きたる5月16日から19日まで東京で開催されることになった旨館長から報告があった。

北海道地区大学図書館協議会“相互協力のための調査委員会”について

昨年12月5日本館において開催された第1回標記委員会で決定された相互協力のための調査事項のアンケート結果の集計が終わったので，さる2月17日本館において第2回標記委員会が開催された。

委員会は，役員館 (7館のうち6館) 出席のもとに，アンケートの各項目について協議した結果，次のような申し合わせがなされた。

1. 資料の利用申し込みの様式を定めること
2. 新聞の保存について役員館内で検討 (分類保存) すること

附属図書館機械化検討小委員会

第6回～第7回小委員会 ——3月17日，19日——

前回までは他機関の電算機導入の状況等見学を主として行なってきたが，それらの結果をもとに今後の小委員会の進め方について検討した。小委員会としては，図書館業務の機械化を検討していく姿勢として，既成のモデルに拘束されずに本学図書館業務の分析を行ない，それに見合った機械化を考えていくこととし，具体的には I. B. M. の協力を得て図書館業務の各パートの分析を行ないシステムを設計することにし，小委員会

に I.B.M. の社員も参加して検討を行なった。

◆学内図書館だより

＜附属図書館＞

北海道大学所蔵　学術雑誌総合目録　和文編

B 5版　406頁 (本文，補遺，その他) オフセット印刷　昭和44年3月刊

この目録は，昭和42年12月現在北海道大学内の各部局に所蔵されている，人文科学および自然科学に関する和文雑誌 (中国，朝鮮語を含む) 約10,000種を合集収録したものである。

編集方法としては，その所蔵を最新誌名のもとに統合記入し，継続関係を明記するとともに，それぞれ所蔵のある旧誌名から参照を付した。また，その所蔵範囲は名部局ごとの号単位で明記してあるので，文部省の刊行になる「学術雑誌総合目録」での記載の不備を補い，学内所蔵の和雑誌探索には一層重宝されるであろう。

なお，学内外の関係機関には一定基準で配布するが，特に希望の方は附属図書館整理課総務掛 (電話学内 2966) へ問い合わせられたい。

参考図書閲覧室に外国学位論文を別置

本館は毎年国外の諸大学より数百点の学位論文 (もしくは学位論文要旨) を受贈している。従来はこの種の論文も一般図書と同じ取り扱いで書庫内に混架されるか，或いはパンフレットとして処理されてきた。しかし最近では学位論文は重要な情報源の一つとして利用されることが多く，本館参考掛でも国外へ学位論文複写を申し込むケースが増加してきた。アメリカの学位論文は Harvard, M.I.T. などの例外を除き，Dissertation Abstracts の利用により University Microfilms 社から容易にゼロックス，マイクロフィルムの複写物を入手することが可能であるが，その他の国の場合は個々の大学に論文複写を申し込むことが必要である。このような次第で本館では国外より受贈した学位論文を参考図書閲覧室に別置して外国学位論文コレクションを作ることにし，最近受入れのものを別置の上カード作成を完了した (内容は学位別著者名順)。その明細は収書通報第7号に掲載される。将来はすでに書庫内に配架されているものもこれと合体して，外国学位論文コーナーを設ける予定である。

現在学位論文を受贈している大学は次の通りである (括弧内は学位の種類)。

＊スエーデン

Kungl. Tekniska Högskolan, Stockholm. (工)
University of Stockholm. (理)

＊ドイツ

Technische Hochschule Hannover. (工・理)
Rheinische Friedrich Wilhelms Universität zu Bonn. (工・農)
Technische Hochschule Karlsruhe. (工・理)
Justus Liebig-Universität zu Giessen. (農・獣医)

＊オランダ

Technische Hogeschool te Delft. (工)

＊フランス

Université d'Aix-Marseile (法)
Univ. d'Aix-en-Provence. (法)

Univ. de Besançon. (理)
Univ. de Bordeaux. (薬)
Univ. de Dijon. (理)
Univ. de Grenoble. (理)
Univ. de Lille. (理・薬・法)
Univ. de Marseille. (薬)
Univ. de Paris. (理・法・経)
Univ. de Poitiers. (法・経)
Univ. de Strasbourg. (理・薬・法)
Univ. de Toulouse. (理・薬)
Univ. de Tours. (薬)
Univ. de Lyon. (理・法・経)
Ecole National Vétéirnaire de Lyon. (獣医)

＊アルジェリヤ

Université d'Alger. (理・薬)
Institut des Sciences Medicales d'Alger. (薬)

本学英文カタログを国外に発送

事務局では昨年中に英文の北海道大学一覧 (Hokkaido University Catalogue 1968-1969) の編集をすすめていたが，漸くさる1月に発行のはこびとなった。本学一覧の英文版は1961-1962年版以来久しく発行されていなかったので，国外の大学，研究機関より本館宛に寄贈依頼がたえず，本館としても発行を待ちのぞんでいたわけである。本館では事務局より英文カタログの国外発送の依頼をうけて，前回の発送先を考慮しつつ各国の主要大学，科学アカデミーの中より340余個所を選んで発送先の基礎台張を作り発送を完了した。発送に際しては交換申込の文書を添付したので，本館における諸外国の大学一覧の充実が期待される。

英国文化協会より英文学関係書を受贈

1月28-31日，クラーク記念会館において英国文化協会 (British Council) および本館が共催する「現代英文学展示会」が開催され，近年英国で出版された英文学関係書584冊が陳列された。この展示会は道内の英文学研究者，学生，一般人を対象に最近の英国文学を紹介することを目的として開かれたものである。

展示会の終了後本館は英国文化協会のご好意により展示書の全部について寄贈を受けることになった。これらの図書は本館で整理ののち教養部図書室に配架され，研究者，学生の利用に供する予定である。受贈書の明細は展示会のために作成された展示書目録 "Modern English Literature" によって知ることができるが，このパンフレットには残部があるのでご希望の方は本館へお申し出いただきたい。

四　季

水産学部図書室

本学図書室は，昭和10年創設の函館高等水産専門学校と共に発足したもので，現在掛長と掛員5名で運用されている。蔵書数は年々増加の一途をたどり (年間増加は約2,300冊)，現在の図書館資料は別表のとおりである。ちなみに，これら膨大な図書館資料を受入，整理するには多大の人力を要し，現員6名では寸暇もない現状である。

蔵書分野は漁業関係が19.6%で第1位，これに次ぐものは化学関係11.3%，生物学関係7.4%である。特色的に見れば，上述のごとく水産文献が主であり，殊にExpedition (Discovery Reports), Dana Reports, Siboga Expedition, Vega Expedition, その他約6種を保有し，この点ではおそらく全国有数のものと考えられる。

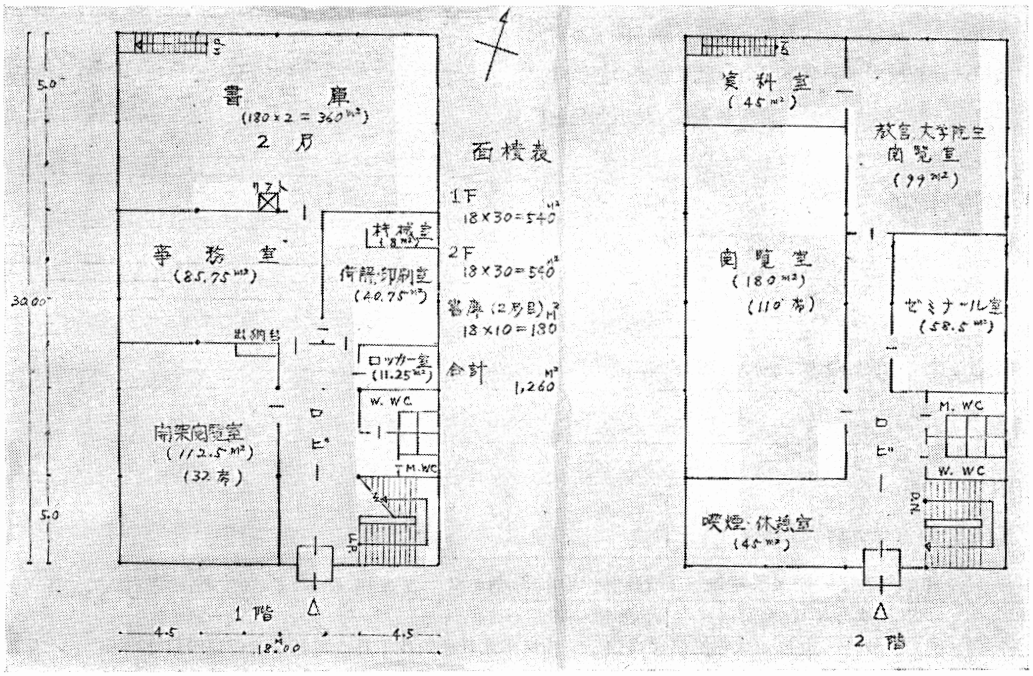
なお海外交換送付先は270カ所，国内交換先は347カ所計617カ所におよぶ。また55,000冊の蔵書中講座備え付けのものは約16,500冊にのぼる。

別　表

蔵書数	
和書	34,641冊
洋書	20,416冊
計	55,057冊
購入雑誌数	
和雑誌	208種
洋雑誌	345種
計	553種
交換雑誌数	
洋雑誌	350種
和雑誌	610種
計	960種

本学図書室は前述のごとく昭和10年に創設され，現在まで33年を経過しているため，来年8月頃学部管理棟，各講座室等が改築されるに伴い図書室(2層)も改築される予定である。図書室関係の面積は1,260 m² で，その内訳は書庫2層180 m²，事務室85.75 m²，荷解印刷室40.25 m²，開架閲覧室112.5 m²，ロッカー室11.25 m²，一般閲覧室180 m²，教官および大学院生閲覧室112.5 m²，ゼミナール室48.75 m²，資料室45m² 等が新築される予定である。このため図書掛原案を数次にわたり図書委員会で検討し，また数回にわたり事務局施設部と連絡談合し改訂を加え，更に図書委員会で多少の訂正を加えて漸く最終案を得た。

北海道大学水産学部図書掛（新築予定図）



また，学生閲覧数は1年間延人数にして約3,080人，利用冊数5,480冊で，この外書庫検索するものおよびゼロックス複写するもの1日約20名である。

図書カードは単行本1冊につき，基本カード2枚（事務用に1枚，本館送付用に1枚），分類カード4枚（講座に1枚，事務用に1枚，学生閲覧室用に2枚）の計6枚作製している。

現書庫は300.25 m² で，このうち新書庫228.7 m² は，函館市の寄附でブロック建，建設年度は1957年度である。

本学図書室出刷物としては所蔵雑誌目録 (1965) および和雑誌目録 (1965) がある。学部出版物としては，紀要（英文），Vol. 16, No. 1/2, 彙報（英和混載）Vol. 19, No. 1～3，海洋調査漁業試験要報 No. 12 まで出版されている。これらは何れも書庫に収蔵されている。

このほか，ソ連漁業関係文献の保有も多く約20種におよび，これらは主として交換により寄贈されているものである。

事務機械としては，タイプ（英文）3台ゼロックス1台，クイックコピー1台を有する。

本学教官の著作物—本館受贈分—（第2回）

農 学 部

矢島 武 農業の危機と復興，酪農と農業経営，現代の農業経営学，農業経済学大要，

京野禎一 青果物の消流並びに価格等に関する基礎調査

高嶋正彦，黒柳俊雄 恵庭町における農業生産の基本問題

高嶋正彦 農業財政投資効果論

崎浦誠治 農業生産力構造論

川村 琢 農産物の商品化構造

金田弘夫 農村に於ける集落設営形態に関する研究

松田武雄教授定年記念事業会 農業転換の経済学

高倉新一郎博士定年退官記念事業会 地域開発と農業

渡辺千尚 あなたの博物誌

低温科学研究所

小林禎作 正続雪華図説（覆刻版），雪華図説考

吉田順五 雪の一生

理 学 部

田部浩三 酸塩基触媒，物理有機化学演習

文 学 部

野田寿雄 近世小説史論考

附属図書館

今村成和 私的独占禁止法の研究（三）

北海道大学附属図書館報 「檜蔭」 Vol. 3, No. 2 (通巻14号)
1969年4月4日 発行 発行人 斉 木 一 郎
発 行 所 北海道大学附属図書館 札幌市北8条西5丁目 電話代表 71-2111 (2966)
印 刷 所 文 栄 堂 印 刷 所 札幌市北3条東7丁目 電話 23-5560